

12. 原爆資料センター展示室

昭和61年，原爆資料センター1階の展示室の全面的な改装がなされました。原爆の人体に与える影響，放射線生物物理学的解説や統計学的解析などが，約40点の写真パネルと50点の図表を用いて，系統的・学術的に展示されている。これには医学部学生の有志が献身的な協力を行った。また，室内には日本語と英語での説明がテープで流れるようになっており，見学者が理解しやすいような配慮がなされている。

A. 写真・図表

1. 医学的解説

1) 原爆症

第1期（急性期）	—被爆直後～14日
第2期（悪急性期）	—被爆後15日～35日—
第3期（悪慢性期）	—被爆後36日～60日—
第4期（慢性期）	—被爆後61日～120日—

2) 原爆後障害症

眼障害

血液疾患（白血病，多発性骨髄腫，再生不良性貧血，真性多血症，悪性リンパ腫）

悪性腫瘍（甲状腺癌，乳癌，胃癌，肺癌，唾液腺癌）

3) 胎内被爆

放射線の胎児への影響（小頭症など）

2. 放射線生物物理学的解説

1) 原子爆弾の比較（広島・長崎）

2) 残留放射能の測定

3) 放射性降下物の影響調査

4) 西山地区住民および対照地区住民の体内セシウム量の経年的変化

5) 原爆被曝線量の見直し

3. 統計学的解析

1) 被爆者健診データ表示システム

2) 被爆者データベース

3) 定期健康診断の延命効果

- 4) 線量別推定生存率
- 5) 死亡状況
- 4. その他
 - 1) 原爆被爆者対策に関する法律

B. 写真以外の展示物

1) 血染めの白衣

西森一正名誉教授が被爆時（学生）に着用していたもの。（この白衣の貝ボタンを用いて、電子スピン共鳴法による被曝線量の測定を行った。）

- 2) 原爆ケロイドの模型
- 3) 急性原爆症者の臓器
- 4) 被爆者白血病の脾臓